☆一人一人が満足・納得する評価

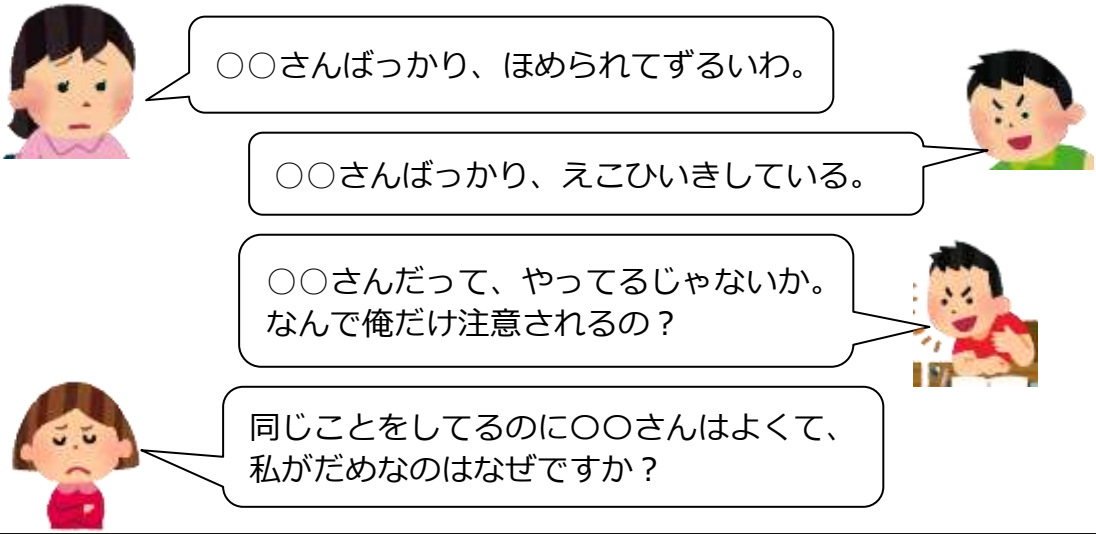
こんなことありませんか？

【注意する時】

【ほめる時】

「なんで俺だけ！」「僕だってやっているよ。A君だけ、ちょっとしたことでほめられる。」･･･こうした不満はなぜ出てくるのでしょうか？

学級でこんな不満、口に出されたことありませんか？



なぜ、子どもが不満に思うのでしょうか…

それは、教師の評価の基準が、子どもたちに伝わっていないからです。

子どもたちは、注意される、ほめられることに関して、とても敏感です。
前ページの対応はよくあることで、対応も間違っていません。
ただ、教師の言葉に対して、学級の子どたちが、なぜ「注意されるのか」「ほめれられるのか」の基準を理解していないことが原因となっている可能性があります。

では、どうすれば…

最初に学級での評価の基準をはっきりと宣言！！

例
この学級では、自分の力を伸ばした人、伸ばそうと努力した人をほめます。その逆に、自分の力があるのに力を伸ばそうとしない人、使おうとしない人には、注意します。

担任

【こんなことを言われたら…】

Ｂさん

○○さんばっかり、ほめられてずるいわ。

例
できたか、できないかじゃなく、○○さんは、○○さん自身の力を伸ばしたからほめているんですよ。Ｂさんについても同じですよ。Ｂさんが、自分の力を伸ばそうと努力しているのを知っていますよ。
応援していますよ！

担任

Ｃ君

○○さんだって、やってるじゃないか。なんで俺だけ注意されるの？

＊自分だったら、何と答えますか？

物事を「できたか・できないか」で評価するだけでは、すべての子どもの頑張りに対応できません。本人の力が「伸びたか・伸びていないか」で評価することをしっかりと学級に示すことで、子どもにとって「注意されても」「ほめられても」、自分のことなので納得することにつながります。

参考：俵原正仁（２０１１）「なぜかクラスがうまくいく教師のちょっとした習慣」